

H22 年度 鴨川 鳥類調査の結果報告

調査の概要

調査時期	実施日	確認種数	重要種数	確認個体数
春の渡り期	4月19日～20日	12目28科51種	15種	965
繁殖前期	5月6日～7日	12目28科50種	15種	692
繁殖後期	6月10日～11日	11目22科37種	8種	683
秋の渡り期	9月21日～22日	10目25科41種	11種	831
越冬期	1月20日～21日	10目27科61種	19種	2401
合計		12目30科78種	30種	5572

調査結果の特徴

鴨川には一年間を通して多くの野鳥が生息しています。特に、冬期は多くの種数、個体数が観察できます。「鴨川」の名前のとおり、カモ類が多く確認できるのも特徴です。

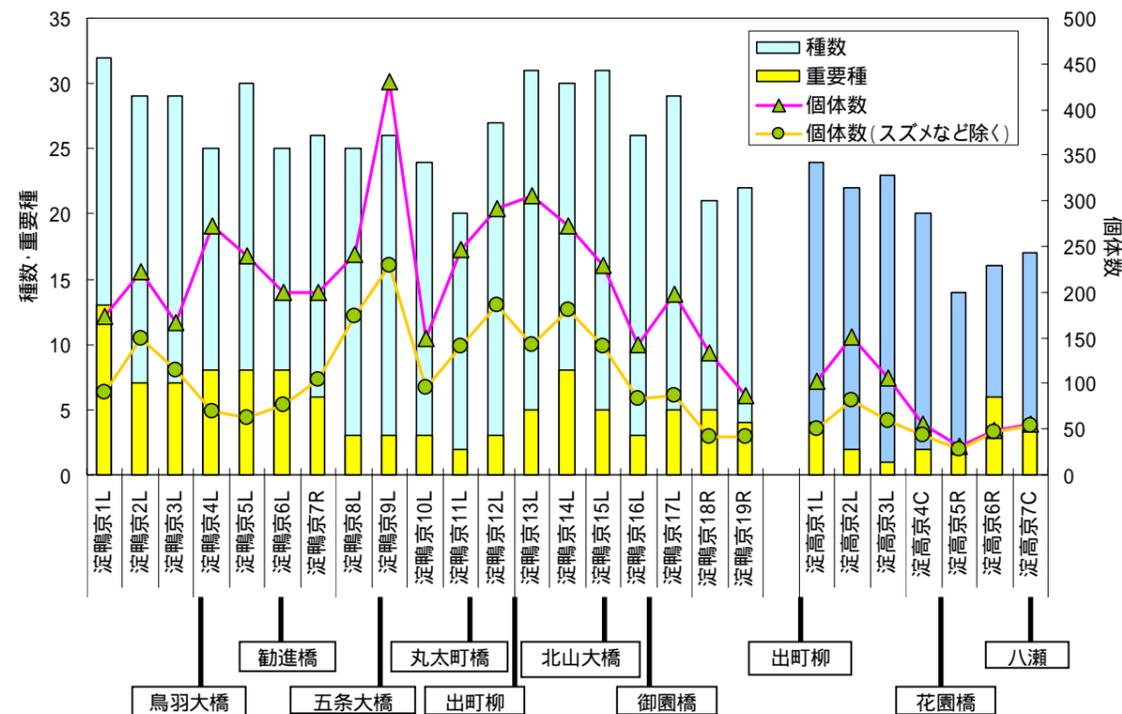
H22年度には1年間で重要種が30種確認されました。これまでほとんど確認されていなかった種が5種含まれています。(トビガモ、クサヅ、ヒヨドリ、ミヤマシジロ、ヒメマコ)

確認種数は、鴨川では、鳥羽大橋より下流の区間と下鴨神社・植物園・上賀茂神社の近くを流れる区間で多くの種が確認されています。逆に、都心部を流れる勧進橋から丸太町橋の区間の確認種数が少なくなっています。高野川では、松ヶ崎付近から下流で確認種数が多く、上流で確認種数が少なくなっています。重要種の確認種数も同じ傾向が見られます。

確認個体数は調査地点によってバラツキが大きく、個体数が多い調査地点と少ない地点で4倍程度の差がありました。種別では、スズメ、ドバト、ユリカモメの順に多く確認しました。

鴨川の全域に広く分布している種としては、アオサギ、セグロセキレイ、ツバメ、ヒヨドリ、スズメがあげられ、26調査地点の内、24地点で確認しました。

調査地点毎の確認種数・確認個体数



鴨川で野鳥が利用する主な環境

環境	利用状況
流水	<ul style="list-style-type: none"> やや深さのある流水部はオナガガモなどのカモ類やユリカモメなどが採餌や休息に利用する。その開けた上空は飛翔して移動するためにも利用する。  
よどみ	<ul style="list-style-type: none"> 流れのよどんだ浅瀬はアオサギなどのサギ類やカモ類などが採餌や休息に利用する。その水際の植生はカイツブリなどが身を隠し、休息に利用する。  
中洲	<ul style="list-style-type: none"> 中洲の砂礫地はセグロセキレイなどのセキレイ類やシギ・チドリ類などが、草地はヒドリガモなどのカモ類やムクドリ・ツグミなどが採餌や休息に利用する。  
河原	<ul style="list-style-type: none"> 河原の砂礫地はイカルチドリなどのシギ・チドリ類やセキレイ類などが、草地はヒドリガモ、ムクドリ、ツグミ、スズメなどが主に採餌に利用する。  
河川構造物	<ul style="list-style-type: none"> 低水敷の河川構造物を採餌場や休息場として利用している。サギ類が水際部で採餌場として使用する様子、ユリカモメが休息する様子も確認した。  
高水敷	<ul style="list-style-type: none"> 高水敷の草地などはドバトやスズメなどが採餌に利用し、植栽木はヒヨドリなどの樹林性の種が採餌・休息したり、ハシボソガラスなどが巣をかけたります。  

